

令和2年度版

# 動物通信

## 動物にとっての危険

～ 人と動物が快適に暮らしていくには ～



はじめに .....	1
1 <small>スーノーフシス</small> 人畜共通感染症とは .....	2
2 動物に危険な食べもの .....	7
3 公共の場で快適に過ごすために .....	10

令和2年12月  
杉並区

## はじめに

今年は、みなさんも知ってのとおり、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るいました。

みなさんも、休校が続いたり、夏休みが短くなったり、毎日マスクをして過ごすことになったりと、今までとは大きく違った日常を過ごしているのではないのでしょうか。

地球上には太古の昔から、細菌やウイルスといった微生物がたくさん存在してきました。地球上で最初に生まれた生物は、人間ではなくアメーバなどの小さな生物（微生物）なのです。この微生物たちのおかげで、私たち人間や動物たちが地球上で生活できる環境が出来上がってきたのです。

ただ、全ての微生物が人間や動物の住環境を整えてくれるわけではありません。微生物の中には、人間や動物たちにとって、恐ろしい存在となる微生物もたくさんいます。また、微生物も生き物なので、自分たちが生き残るために変化をします。今年ずっと話題になっている新型コロナウイルスも、今までいたコロナウイルスが変化をしたために、私たち人間にとって未知の病原体となり、かかる人が増えてしまいました。

今年はずっとこのウイルスのことばかり聞いていると思います。そこで、今年度の動物通信では、私たちの身の回りにある、「危険なもの」をテーマにすることにしました。危険なものを知って、どうすれば自分たち、そして大事な家族である動物たちが安全に生活できるようになるのか考えていきましょう。



## 1 ズーノーシス 人畜共通感染症とは

感染症には、人から人にうつるもの、あるいは動物から動物にうつるもののほかに、人と動物の間でうつるものがあります。このような病気を、人畜共通感染症といます。

人畜共通感染症は、その名のとおり、人にとっても動物にとっても危険となるものです。

では、この感染症を防ぐために、飼い主はどのような対策をすればよいでしょうか。

- ①ペットの身の回りを、いつもきれいにしておきましょう。フン・尿はできるだけ早くかたづけましょう。

②人とペットの食器は分けるようにしましょう。

エサの口移し、スプーンや箸の共用はしないようにしましょう

③ペットと遊んだ後は、必ず手を洗うようにしましょう。

④定期的にペットの健康診断を受け、ワクチンの接種や寄生虫予防をしましょう。

次に、動物から人にうつる主な共通感染症を紹介します。

#### ◇狂犬病

人畜共通感染症の中でもっとも恐ろしい病気の一つです。主に狂犬病ウイルスを持つ犬にかまれることで感染し、人がかかってしまうとほぼ100%死に至ります。

日本では飼い犬は登録をして、毎年、狂犬病予防注射を受けさせることが法律で義務付けられています。狂犬病予防法が制定される前の日本では多くの犬や人が狂犬病に感染し死亡していましたが、今は日本で狂犬病の発生はありません。しかし、今でも世界では年間何万人もの人が狂犬病で亡くなっています。いつまた狂犬病が日本へ入ってきてもおかしくはありません。そのために、保健所が犬の飼育頭数を管理して、犬には狂犬病予防注射をしておくことで、狂犬病が日本中に広がることを予防しているのです。

#### ◇レプトスピラ症

主に犬やネコ、家畜、ネズミなどから人にうつります。感染した動物の尿や、それに汚染された水や土からも感染します。

人の症状は頭痛や発熱ですが、肝臓や腎臓などの障害を起こすこともあります。犬はワクチンによる予防が可能なので毎年接種しましょう。



## ◇パストツレラ症・ネコひっかき病

動物にかまれたり引っかけられたりしてうつる病気です。食べものの口移しで人へ感染することもありますので注意が必要です。動物の多くは症状がありませんが、人が感染すると傷口やリンパ節がはれ、痛みや熱が出てきます。ネコひっかき病の病原体はノミが運びますから、犬やネコのノミの駆除を定期的に行うことが重要です。また、犬やネコの手を定期的に取り除き、傷が生じにくいよう心がけることも大切です。

## ◇皮膚糸状菌症

犬、ネコ、ウサギやハムスターなど、様々な動物から真菌（カビ）の糸状菌が感染して皮膚症状を引き起こす病気です。ペットが感染した場合には、なるべく触るのを避け、手洗いをしっかりしましょう。抜け毛やフケからの感染も考えられるので掃除も念入りに行ってください。

## ◇寄生虫（ダニ媒介感染症）

犬やネコにノミやダニがついてしまうと近くにいる人にもすぐ移ってしまいます。病原体を保有するダニにかまれることによって起こる感染症はたくさんあります。ペットも人もノミ・ダニ予防は非常に重要です。

## ◇回虫幼虫移行症

回虫は白く細長い寄生虫です。この回虫の卵が人の口に入ると、おなかの中で小さな虫が生まれ、人間の体の中を動き回ります。そして目、脳、内臓などに入り込んで悪さをします。小さな子どもがいるお家では、特に注意が必要です。ペットの定期的な駆除をし、排泄物の適切な取り扱いを心がけましょう。



## 2 動物に危険な食べもの

みなさんは、カレーライスが好きですか？

お肉やにんじん、じゃがいも、玉ねぎ、コーンが入っていることもありますね。みなさんが食べていると、「ちょうだい、ちょうだい」と、みなさんのお家のペットがほしがってそばに来るかもしれません。

犬やネコは、いつものフードだけでなく、人が食べるものにももちろん興味を持っています。

だれかがカレーをこぼしたら、「あっ！おいもを落としたぞ！」と、さっと走ってきて、パッと食べてしまうかもしれません。

実は、これはとっても危ないことなのです。

ペットたちは、ねぎや玉ねぎ、にんにく、にらなどを食べると、中にふくまれている成分で、ネギ中毒と呼ばれる病気になってしまうことがあるのです。

それらの食べものに入っている成分は、スープにも溶けているので、汁だけをなめても具合が悪くなるかもしれません。

カレーだけではありません。他にも私たちがいつも食べたり飲んだりするものの中には、動物にとって危険なものがたくさんあります。

その中の一つに牛乳があります。牛乳は、お母さん牛が赤ちゃん牛に飲ませるもので、「乳とう」という成分がふくまれています。

私たちの中にも、牛乳を飲むとおなかがゴロゴロ鳴って、痛くなってしまう人がいますよね？実は、ペットも同じなのです。

飲んでも平気な動物もいますが、おなかをこわしてしまう動物もいます。

次に、どんな危険な食べものがあるのか見てみましょう。

#### ◇動物が食べると危険なもの

- ・チョコレート      ・ココア
- ・コーヒー              ・コーラ

これらには、テオブロシン、テオブロミンなど、けいれんを起こしてしまうかもしれない成分がふくまれています

- ・<sup>ほ</sup>干しぶどう

<sup>じんぞう</sup>腎臓を悪くすることがあるので、食べさせない方がいいでしょう。

- ・生の肉や魚      ・エビ      ・イカ
- ・タコ              ・貝

消化の良くないものなので、気をつけなければいけません。

塩分、<sup>とうぶん</sup>糖分なども多く<sup>あた</sup>与えると病気になることがあります。

また、鳥の<sup>ほね</sup>骨、タイなどの魚の<sup>ほね</sup>骨ものどやおなかの中で、刺さってしまったりするので、与えたり、ゴミ箱から拾ったりされないように気をつけましょう。

え？そんなもの食べたの？と驚くようなものをペットは食べることがあります。

クリスマスに飾<sup>かぎ</sup>るポインセチア、春先に咲<sup>さ</sup>くスイセンや、他にもイチジク、彼岸花<sup>ひがんばな</sup>、朝顔なども、茎<sup>くき</sup>、葉、実、種などにふくまれる成分がペットの身体の調子を悪くすることがあります。

幼<sup>おきな</sup>いペットは、落ちていた木の実を転がして遊んでいるうちに食べてしまうこともあるので、注意しましょう。



### 3 公共の場で快適に過ごすために

最近、犬を連れた人を公園や街で見かけることが多くなってきました。公共施設や商業施設の中には、そうしたペットの飼い主に向けて様々なサービスを行うところも増えてきました。

一方、犬を連れた人とそうでない人の間、また犬を連れた人同士の間トラブルも起きています。そうしたことを避けるために、飼い主のみなさんは何に気をつければよいのでしょうか。

その主なものを紹介<sup>しょうかい</sup>します。



## ◇自宅とその周囲

### ・鳴き声

飼い主にとって、ペットの鳴き声は生活の一部かもしれませんが、動物を飼ったことのない人にとっては、そうでないこともあります。

特に深夜や早朝の鳴き声は、<sup>ひん</sup>頻度や位置関係によっては不快なものになります。飼い主の責任で、しつけや訓練を行う必要があります。

### ・トイレ

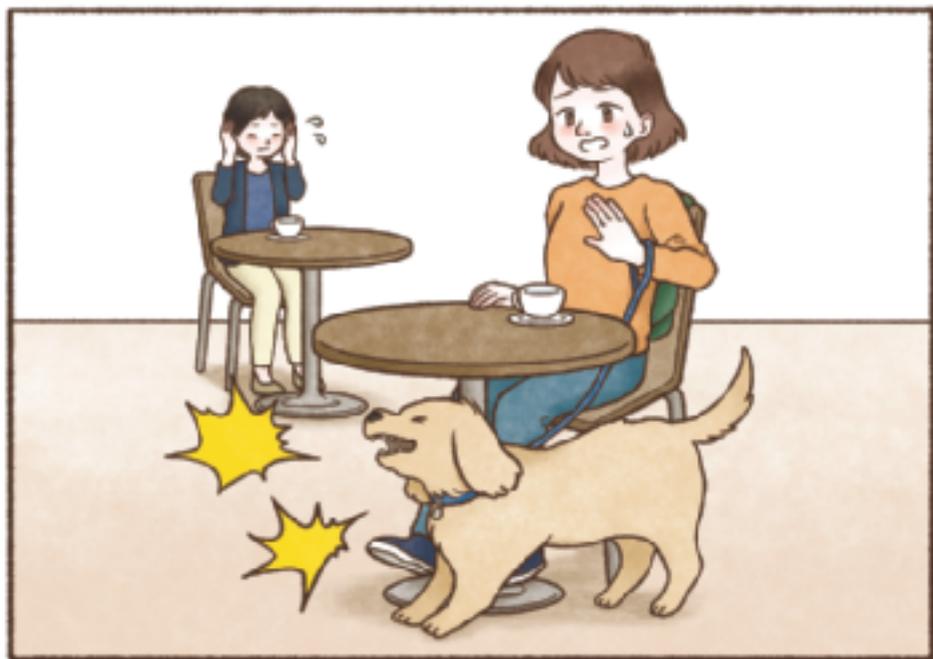
散歩をする前に、家の中でトイレシートに<sup>はいせつ</sup>排泄するようにトレーニングしましょう。根気のいるしつけですが、この習慣が身に<sup>つ</sup>付いていると、<sup>さきざき</sup>先々メリットがあります。

例えばドッグランの利用や旅行先へいっしょに行った時などに、トイレをしてはいけないところにしなくなるということがあります。

### ・ワクチン

<sup>きょうけんびょう</sup>狂犬病の予防接種（狂犬病ワクチン）は、狂犬病予防法で義務付けられています。また、必要に応じてそれ以外の混合ワクチンも受けましょう。

これらのマナーは、これから<sup>しょうがい</sup>紹介する外出時におけるマナーの基本になります。



## ◇散歩・お出かけの時

- ・屋外（散歩、公園、ドッグランなど）
- ・屋内（ドッグカフェ、宿泊施設など）

### 【持っておくもの】

#### ①鑑札・狂犬病予防注射済票

狂犬病予防法で定められている、犬の登録票です。

#### ②リード・首輪または胴輪

リードは基本的に短く、1 m程度にしておきましょう。

#### ③水

犬の飲料用と、万が一、外で尿をした場合に備えて持っておきます。（水飲み皿も忘れないようにしましょう。）

#### ④ビニール袋

フンをした場合に備えて持っていきましょう。（フンのおいが漏れないよう、ポーチや密閉容器、トイレシートやウエットシートもあるとよいでしょう。）

※事前にノミ、ダニの予防もしておきましょう。

（公共の場では、うつさない・うつらないために必要です。）

散歩はトイレのためではなく、運動の時間と考えましょう。

また、必ずリードを付けて足元付近を歩くように心がけ、すれ違う人や犬、自転車・バイク・車などに注意する必要があります。

ドッグランやカフェ、宿泊施設には、これまで説明してきたマナーのほかに、それぞれ独自の決まりごとがありますので、事前に十分調べておく必要があります。

動物を好きな人も、そうでない人も、みんなが暮らしやすい環境を作っていくには、おたがいへの思いやりが大切です。



## あとかき

2020年は、新型コロナウイルスのために、色々なことを我慢しなければなりませんでした。知らないことを恐れるのは、みんな同じです。しかし大切なのは、正しく知り、正しく恐れることです。飼い主としてだけでなく、多様性を持つ社会を営む私たちには、まず知ることが求められています。だれもが思いやりをもち、よりよい社会を作っていくには、おたがいのことをよく知ることが大切ではないでしょうか。

## 獣医師会会員 動物病院案内(町名順)

阿佐谷ペットクリニック	阿佐谷北 4-1-2	3330-3020
グリム動物病院	阿佐谷南 3-5-1	3393-2624
ちやふるペットクリニック	天沼 3-23-34	6240-6377
たかぎ動物病院	井草 1-35-4	5382-1233
いぐさ動物病院	井草 1-31-16	3397-7115
ひがしやま動物病院	和泉 2-33-22	3322-8338
さくら動物病院	今川 4-20-11-1F	3301-7800
ハナ動物病院	梅里 2-284 梅里MSビル1階	5913-8241
パル動物病院	永福 3-51-13	5376-5344
永福あにまるクリニック	永福 4-22-6-1B	5329-1255
天野動物病院	大宮 1-2-3	3325-6798
グレース動物病院	荻窪 5-4-9	3220-2717
米川動物病院	荻窪 3-12-5	3398-1141
K's どうぶつ病院	上井草 3-1-19	3395-1947
荻窪ツイン動物病院	上荻 1-23-18	3220-1122
もりぞう動物病院	上荻 2-21-25-1F	6915-0035
エルムス動物医療センター	上高井戸 1-14-4	3304-4090
ダクタリ動物病院 久我山	久我山 3-7-27	3334-3536
久我山動物病院	久我山 5-33-20	3331-0960
オハナ動物病院	高円寺北 3-23-6	5364-0203
高円寺アニマルクリニック	高円寺南 2-14-14	3311-1014
小金井動物病院	下井草 3-32-10	3390-8794
広瀬獣医科病院	下井草 2-4-10	3394-0116
鈴木動物クリニック	善福寺 2-30-5	5382-8707
浜田山かじわら動物病院	高井戸東 3-1-25	3290-1239
しんどうぶつびょういん	高井戸東 4-9-1	5336-3721
ミ・サ・キ・動物病院	高井戸東 2-25-8	5370-1013
成田犬猫病院	成田東 3-2-3	3315-5300
小張獣医科病院	西荻北 2-13-3	3390-6025
ブルーミントン動物病院	西荻南 2-22-11	5941-9711
マスマガ動物病院	浜田山 4-11-12	5378-1014
東京動物医療センター	松庵 2-19-15	3331-3381
塩田動物病院	南荻窪 1-6-14	3332-2310
なかむらペットクリニック	南荻窪 4-22-6-1F	5370-6070
みやまえ動物病院	宮前 3-9-1	5344-1677
エルム動物病院	桃井 1-26-20	3396-1207
D&C Physical Therapy	和田 3-60-10	3311-8888
安達動物病院	和田 3-60-11	3311-5678

編集

## 公益社団法人 東京都獣医師会杉並支部

ホームページ

(URL) <http://www.s-vet.com>

(イラスト協力 女子美術大学芸術学部  
アート・デザイン表現学科  
ヒーリング表現領域 黒須彩恵)

動物通信 動物にとっての危険 ～人と動物が快適に暮らしていくには～

令和2年度版

令和2年12月発行

発行・監修

杉並区杉並保健所生活衛生課

〒167-0051 杉並区荻窪5-20-1 電話 03(3391)1991

☆杉並区のホームページでご覧になれます

<https://www.city.suginami.tokyo.jp>

登録印刷物番号

02-0055



R40

古紙配合率40%再生紙